

# 家庭から出るごみの処理

私たちが日常、生活する上で必ず考えなければならない問題があります。

その1つが、毎日排出される「ごみ」の問題です。

今回は、皆さんにごみの現状と町の考え方をお伝えし、それぞれ考えていただきたいと思います。

環境対策課環境対策係 ☎028(677)6041

芳賀町では、約20年前、平成15年頃から他市町に先駆けて家庭から出るごみの減量化を進める循環型社会「環の町芳賀」の取り組みを始めました。当時は、年々ごみの排出量が増え続ける中、芳賀郡中部環境衛生事務組合の焼却施設の老朽化、新設される最終処分場建設など新たな問題が、町に重くのしかかっていた。



▲広報はが 平成15年6月号

## 循環型社会「環の町芳賀」の4つの柱

- ・何よりも「ごみを出さない」
- ・出してしまったごみは「できるだけ資源として使う」
- ・どうしても使えないごみは「きちんと処分する」
- ・リサイクルされたものを積極的に使う



4つの柱の基、増え続ける家庭からの  
ごみ問題に対し、ごみの減量化を図るため、  
新たにスタートした事業があります。

- その1 容器包装プラスチック類、発泡スチロール類回収処理事業
- その2 生ごみ回収事業
- その3 資源物回収団体支援事業

19年前に町内から出されたごみの総量は約3,400トン、昨年令和3年度の実績は約3,773トンでした。

約20年間で約370トン増加しています。19年前に予想していたごみの総量は4,600トンなので、循環型社会「環の町芳賀」を基にした取り組みは、町民の皆さんのご協力により、一定の効果を発揮していることが分かります。

今は地球温暖化や海洋プラスチック問題が世界を席巻している時代です。企業では、SDGsへの取り組みが必須要件となり、持続可能な社会を目指して世界が動き出しています。

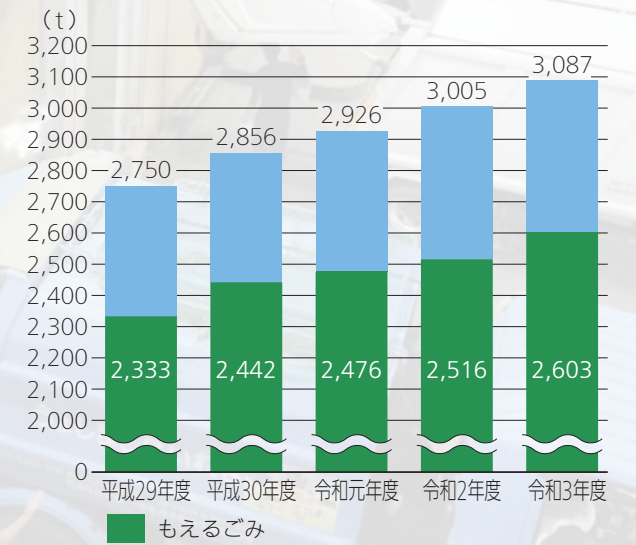
自治体も取り組むべき課題として捉え、地域の価値を高めていく時代が到来しています。

グラフ 1

## ごみ排出量の推移

町内から出されたごみの総量の内、芳賀地区エコステーションで処理されたごみの量は右のとおりです。5年間で約340トン増加しています。特に、処理量全体の85%を占める「もえるごみ」が、270トン増加しています。リサイクルできる「紙類」や「衣類」は逆に減少傾向になっています。

リサイクル可能な資源を「もえるごみ」として排出していることがうかがえます。

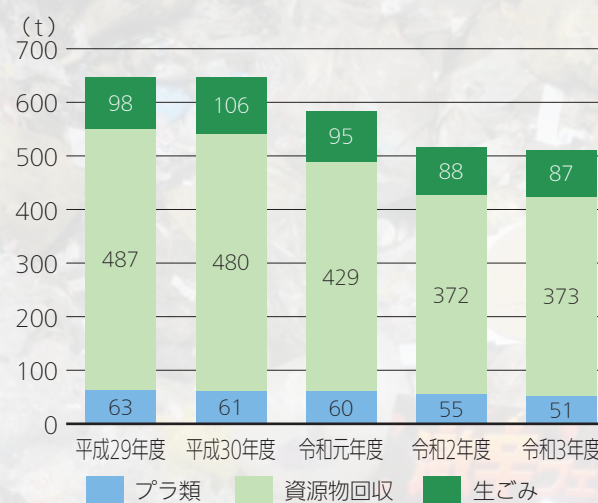


グラフ 2

## 町独自の取り組み

循環型社会「環の町芳賀」の取り組みであるプラスチック類回収事業や資源物回収団体支援事業、生ごみ回収事業の実績は左のとおりです。

回収量は、年々減少し、分別リサイクルの意識が低下しているのではないかと考えられます。



20年前にごみ問題を重要な課題として認識し、町民の皆さんにご協力いただきながら循環型社会「環の町芳賀」の取り組みを基本としたごみ処理政策を展開してきました。

しかし、各世帯や地域の中で、世代交代が進んだり、新しいコミュニティが作られたりしたため、ごみ分別や資源化の意識が低下してきたと考えられます。これから、持続可能な社会づくりのために必要な仕組みを一体となって考えていきましょう。

特集 ①  
特集 ②  
特集 ③  
特集 ④  
特集 ⑤  
特集 ⑥  
特集 ⑦